





カルタゴのローマ遺跡



シディ・ブ・サイドのカフェ・ナット

ラブと西洋が融合した巨大迷路のようなメディナは一見の価値があります。敵から身を守るアイデアか、とにかく入り組んだ小さな道が続くので迷子にならないように心して散策しました。パルドー博物館ではカルタゴからの出土品やローマ支配時代のモザイク、アラブ芸術などのコレクションを見ました。

その後、古代フェニキア人が築き、名将ハンニバルで知られるカルタゴを観光しました。カルタゴの街は、今では大統領官邸と大使館などが並ぶ高級住宅街になっており、その中に遺跡が残されています。かつて温暖な気候と豊かな土地に恵まれたカルタゴは、フェニキア人の植民都市として建設され、優れた海洋技術で地中海を隔てたローマと並ぶ大都市として栄えました。紀元前3世紀から紀元前2世紀には、南に

侵攻してきたローマ軍と衝突し、3度にわたるポエニ戦争を繰り広げ、ハンニバル率いるカルタゴ軍は善戦しながらもローマに敗れ、町は徹底的に破壊されました。現在残るローマ風呂や円形劇場跡などの遺跡はローマ植民都市時代のものですが、地中海を望むビエサルの丘に立つと、カルタゴの往時の姿が蘇ってくるようです。フィニキアの植民地から地中海の覇者にのし上がった大帝国カルタゴが、戦後の日本とダブるのは私だけでしょうか……。

遺跡の観光後は、地中海を見下ろすリゾート地シディ・ブ・サイドを訪れました。ここは海と空に映えるチュニジアン・スタイルの青い窓枠と白い街並みのコントラストがとても美しいです。高台に建つ有名なカフェ・ナットで「ボガ」を飲みました。ある植物の成分が材料とし

て使われているという黒い液体の「ボガ」は、チュニジア版コーラともいうべき国民的な飲み物です。

翌朝、専用バスで陸路の観光に出発。最初の訪問地は陶器の町ナブール。市内のあちこちに鮮やかな彩色を施したタイルがあり、太陽光線を浴びて奇麗に映えていました。

次ぎに立ち寄ったのは、古くから有名なビーチリゾート地のハマメット。ここはヨーロッパ人で賑わっていました。

本日の宿泊地はメッカ、メディナ、エルサレムに次ぐイスラム第4の聖地カイラワーンです。マグレブ最大の聖都は、世界遺産になっています。ここではマグレブ最古のグランドモスクとアンダルシアの影響を受けた色鮮やかなタイルが美しい床屋のモスクを見ました。

カイラワーンからは内陸部の観光です。空、海、扉という“三つの青”に彩られたイメージをもつチュニジア。しかし、この国を訪れた人の心を捕らえて離さないのが果てしもなく続く茶色に輝く砂の海、すなわちサハラ砂漠の世界です。「イングリッシュ・ペイシエント」や「スターウォーズ」もチュニジアのサハラ砂漠を舞台に選んで撮影されました。それくらい私たちが普段囲まれている世界とは全く別の世界が、この土地には広がっているのです。

チュニジア中央部のスベイトラではチュニジ

アに残る一番新しいローマ遺跡で、ビザンチン時代の終焉の地となったスフェチュラ遺跡を見学しました。凱旋門や神殿などが綺麗に残っており、朝焼けに照らされた遺跡は幻想的でした。

その後、オアシスの美しい南部の観光地トズールへ。ここではメディナの散策以外に、チュニジアの歴史や文化を紹介しているダルシュライト博物館と砂漠の生物を集めた砂漠動物園を訪れました。動物園では名物のコーラを飲むラクダが、目の前でコーラのペットボトルを飲み干してくれました。また、私は陽気な飼育員によって大きなヘビを無理矢理首に巻かれてしまいました。夜は民族舞踏のディナーショー。チュニジア料理といえば日本でも比較的知られた「クスクス(CousCous)」が最も大衆的なメニューです。チュニジアの「クスクス」にかける赤いスープは、基本的にほかのすべてのチュニジア料理のベースとなっています。このほか唐辛子のペースト「ハリッサ」やクレープの包み揚げ「ブリック」、米粒のようなパスタの入った赤い色をした「チュニジアンスープ」なども典型的なチュニジアの食事で、どれも美味しかったです。

ネフタは、町の周りにナツメヤシの生い茂るオアシスがある砂漠の中の小さな町。アルジェリアとの国境近くのこの町を拠点として、4WD車でタルメザ峡谷の山岳オアシス(シェピカ、



砂漠動物園の名物、コーラを飲むラクダ



ナツメヤシの生い茂るオアシスの町



スターウォーズの物語が始まる「惑星タトゥイーン」

タメルザ，ミデス)を観光しました。砂漠のドライブを楽しむとともに，タメルザの滝や「イングリッシュ・ペイシエント」の舞台となった“チュニジアのグランド・キャニオン”といわれる渓谷ミデスなどの雄大な景観を楽しみました。険しい谷間にしがみつくように形成されたオアシスの景観は圧巻です。

ドライブの途中で「惑星タトゥイーン」にも寄りました。ここは，主人公であるルーク・スカイウォーカー(旧3部作＝エピソード4～6)とアナキン・スカイウォーカー[ダース・ベイダー](新3部作＝エピソード1～3)の故郷で，銀河の中心から遠く離れた辺境にあるアカーニ

ス・セクターにあります。住人は主に水分抽出農場を営み，荒野にはサンドピープルやジャワズが住んでおり，犯罪組織ハット・カルテルの党首ジャバ・ザ・ハットが宮殿をかまえていることでも有名です。皆様をご存知の「スターウォーズ」のストーリーはここから始まるのです。

午後からは塩の結晶が輝く大塩湖ショット・エル・ジェリドを横断し，チュニジア最南端のオアシスの町ドゥーズへ向かいました。塩の結晶で覆われたジェリド湖は，長さ200km，最大幅は80kmにもおよぶチュニジアで一番大きな塩湖です。チュニジアのお土産といえば，名物は「砂漠のバラ」。これはサハラ砂漠特有の産物



ジェリド湖の“砂漠のバラ”売りの露店



ラクダに乗って砂漠に沈む夕日を眺めに

で、地下水が蒸発した際に塩分が結晶化してバラの花のような特殊な形になったもの。大きなものから小さなものまで種類も大変豊富です。

ドゥーズは砂漠への拠点として知られており、砂漠へのキャラバン・ツアーが出ています。到着後、隊商のような衣装に着替えてからラクダに乗り、サハラ砂漠に沈む夕日見物に出かけました。ラクダに乗って美しい風紋を刻んだサハラ砂漠の砂丘の中で夕日を眺めるものと思いきや、運悪くこの日は途中から砂嵐に見舞われてしまいました。砂嵐の中ではメガネをかけているとメガネの内側で砂が舞い、目を開けてはいられず、メガネ無しの方が目に砂が入りにくいことを体験しました。

昨晩の砂嵐はおさまり、砂漠の町ドゥーズの朝やけは美しかったです。朝食後、ドゥーズの市場を見学してから、ベルベル人が伝統的な穴ぐら式の住居で日々の生活を送っている町マトマタへ行きました。7～8世紀頃、アラブ人の侵攻によって南へと追われた北アフリカの先住民であるベルベル人は、厳しい地形を利用して様々な形態の都市を形成しました。その中で最も独創的といわれるのがマトマタの穴居住宅です。苛酷な熱射に見舞われる土地で暮らすベルベル人は快適な生活を守るために地表の斜面に穴を掘り、住居を造りました。その快適性は今ではホテルにも利用されるほどです。穴ぐらの中は足を一步踏み入れただけでヒンヤリとした



ベルベル人の穴居住宅

空気が肌に張り付き、外界の暑さを忘れさせてくれます。私は泊まることができませんでした。が、せっかく訪れたのであれば、そんなホテルに泊まってみるのも旅のいい思い出になるでしょう。ちなみに、ここも「スターウォーズ」のロケ地となっていました。

午後はオリーブ畑に囲まれた小さな町エル・ジェムへ。ここにはほぼ完全な姿で残る古代ローマの円形闘技場があります。このマグレブ最大の円形闘技場は“アフリカのコロセウム”とも呼ばれ、当時の町がオリーブ油の貿易でいかに繁栄していたかを物語っています。かつて剣闘士と猛獣の戦いが繰り広げられたコロセウムは、現在でも数万人を収容することができるため、毎年夏に音楽祭が開催されているそうです。

サハラを体験した後は、白壁の家々が立ち並ぶ旧市街と地中海が美しい町スースに宿泊。ここは“沿岸の真珠”と呼ばれる地中海に面した中堅都市で、リゾート地としても有名です。

午前中はスースの市内観光。スースのメディナ散策はもとより、要塞リバトやカスバ内の考古学博物館などを見学しました。防壁をめぐるせたイスラム修道院リバトやメディナなどにイスラムの雰囲気を感じ取れます。昼食後に北部のリゾート地ポート・エル・カンタウィに立ち寄ってから、チュニスへ戻りました。これで遺跡と自然と民族、サハラが織りなす見どころ満載のチュニジアの旅は終わり、ミラノとチューリッヒで航空機を乗り換え、帰国の途につきました。



エル・ジェムの円形闘技場内部



地中海の恵みを受けた“沿岸の真珠”スースの白い街並

天才と呼ばれた戦略家ハンニバルの英雄伝、ほとんど残らず消えた美しい都市，地中海を自由自在に行き交った航海術，すべては語り継がれた伝説の中にあるだけです，古代世界に栄華を極めた大帝国カルタゴの幻は，今もロマンをかきたてます。また，この恵みの大地には様々な民族が訪れ，支配し，多様な文化や民族を残していきました。それらは現在，チュニジ

アという小国に，モザイク画のような魅力を作り上げています。それゆえ旅人は，遺跡を巡り，ビーチに遊び，迷路のようなメディナをさまよひ，そして遙か南へと続く広大なサハラへと，限りなく思いをつなげていくのです。是非ゴールデンウィークに，感動を捜しに旅立ってみては如何ですか。